

自由表面計算で多く用いられる Volume of Fluid method (VOF 法) では、計算要素ボリューム(有限体積法的な 離散要素“ボリューム”) 内で 気体、液体の分率を 0 ～ 1 などの値で割り当てます。

FieldView で自由表面を表現する場合、データ読み込み後、

Iso-Surface パネルから

- [Create] – [Define Iso-Function] – VOF 値にあたる変数選択
- [Calculate] - [Iso-Function] の Current 値を 0.5 に設定
- [Display Type: Smooth] – [Coloring: 水に相当する色選択]

という手順で表示できます。

次ページのように、壁面部分に対して、Coordinate Surface を表示し、VOF 値に threshold clipping を行うことで、より見やすくなります。

Coordinate Surface パネルから

[Create] – [Scalar Function] – VOF 値にあたる変数選択

- [Calculate] - [Iso-Function] の Current 値を 0.5 に設定

– [Display Type: Smooth] – [Coloring: 水に相当する色選択]

- “subset” タブ [Threshold Function] – VOF 値にあたる変数選択

- Threshold 値を min 0.5, max 1 などに調整(計算条件によって変わります)

- [Threshold Clipping] にチェック

という手順で表示できます。上記で作成した Coordinate Surface を
各解析領域境界に4つほど作るなどします。

次ページは、サンプル画像です。



